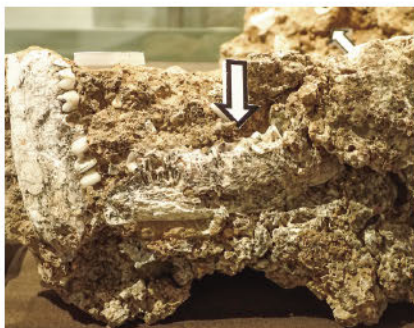


## 太古の恩納村にシカが生息!?

村内にシカが住んでいた痕跡があることを知っていますか?これまでの研究成果から後期更新世の琉球列島では数種類のシカが生息していたことが分かっています。沖縄本島には、リュウキュウジカとリュウキュウムカシキョンといわれるシカが生息していましたが、2万7千~3万6千年前に絶滅したとされています。瀬良垣、南恩納区の離れ島にリュウキュウジカとリュウキュウムカシキョンの化石が確認されており、仲泊の採石場でも報告事例があり、村内では3か所に所在しています。現在のシカと比較すると大きさも小型で警戒心も低かったと考えられています。現在まで生息していたら、人懐っこく野山や原っぱを散策していたかもしれませんね。



南恩納ヨー島のシカの化石



瀬良垣のシカの化石



シカの歯の化石

## 文化財のオカヤドカリ

「アーマン」でお馴染みのオカヤドカリです。オカヤドカリの種類は数種類あり、灰色の「オカヤドカリ」、紫色の「ムラサキオカヤドカリ」、小型で青白色系の「ナキオカヤドカリ」などがいます。

沖縄が日本復帰前まで、日本の小笠原にしか生息が確認されていなかった「オカヤドカリ」は、1970(昭和45)年に地域を定めず国指定の天然記念物に指定されていました。沖縄の日本復帰後、沖縄にも生息していることがわかり急遽、保護の対象となりました。そのオカヤドカリに関する伝承にこのようなお話があります。沖縄の島々の伝承の一つに「島の始まりの時代にアダンが生い茂り、その根元の穴から「アーマン(オカヤドカリ)」が「カブリー」という言葉を発して地上に現れた」といいます。オカヤドカリが繁殖した後に、オカヤドカリが出てきた穴から人間の男女が現れて人類が誕生したとされ、オカヤドカリを人類の祖先(又は守り神)とする生命誕生の神話が残されています。村内の調査でも穴に入っているオカヤドカリを発見しました。伝承にある穴なのでしょうか?

※オカヤドカリは、保護動物ですので無許可での採取・販売は禁止されています。



穴に隠れるオカヤドカリ



オカヤドカリ



ナキオカヤドカリ

お問い合わせ:恩納村博物館 ☎982-5112